

[平成 27 年度 7 月期受講体験記]

第二級養成講座 (e ラーニングシステム) を受講して

私は、電話級、電信級を取得していましたが、つい先日まで休眠していました。最近、復活しハムライフを楽しんでいるところです。

電話級を取得した当時も、そして今も、第一級、第二級の免許は、私にとって羨望の的であり、憧れの存在でした。それは大きな出力や 14MHz 帯などに出ることができるから・・・? それもあるかもしれませんが。私の中ではそれよりも、なかなか取得できないステータス的な存在だったかもしれません。

国家試験は、受験日が限定されてしまうこととモチベーションを高く勉強を続けることが、私にとっては非常に難しいことでした。

今回この養成講座を受講するにあたり、受講期間 3 か月、最長 6 か月の間、モチベーションを高く持ち続けることができるのか、自問自答しながら、抽選に漏れることもあるしと、勢いで受講申し込みをしました。

運良く受講することができ、教科書などが送られてきました。「厚いなあ!」、これが教科書を受け取った第一印象。この一冊を読破し理解できれば、なんとかなるぞと、言い聞かせながら、受講を始めました。

受講期限は半年ありますが、最短 1 か月で修了試験を受験することができるなら、まず短期決戦でトライして、もしダメであったら残り期間を十分に使い、2 度目の受験をしようと決めました。

「何があっても毎日、少しの時間でも PC を起動させログインすること」をノルマと決めました。当然仕事があります。夜まで仕事が長引くこともあります。ちょっとお酒を飲んでしまうこともあります。それでも、その日の予定に合わせて、ちょっと朝早く起き、昼食後のちょっとした時間に PC を起動、もしくは教科書を開くということを実践しました。

一日一章勉強し、夜最後に中間試験を受ける。合格であれば、翌日は次の章に進み、前日合格した章の復習もします。前日の試験が不合格であれば、翌日は前日の章と次の章を合わせて勉強し、二つの中間試験を受ける。さらに翌日は復習する章が増えるわけですが、とにかく、繰り返し中間試験問題、練習問題を制覇しました。そして気分転換に電波法規と無線工学を時々入れ替えました。

計算問題も最初は頭が熱くなりました。でも、繰り返し同じ問題を解くことは、単に馴れる、あるいは暗記するということだけではないと思いました。後で気が付いたことですが、国家試験問題集に載っている一級の計算問題も解くことができるような応用力が身についたように思います。

法規の問題では、やはり完全な暗記が必要です。AとBとCという同格の言葉が並んでいたとします。AもBもCもどれも同格ですからどの順番で回答しても良いように思いましたが、「電波法の規定に照らし」と「最も適切な字句」との設問設定から、法の規定する順番で回答することが正答です。少し紛らわしい条文もありますが、繰り返し反復し暗記することが必要です。

すべての中間試験に合格すると、いよいよ判定試験です。判定試験は、設問数、試験時間も全く同じです。これに合格すればいよいよ修了試験ですが、ちよっと、一呼吸置きました。

判定試験と修了試験が同じ形式ならば、判定試験は修了試験の予行演習です。試験前に、再度すべての演習問題、練習問題、中間試験問題を確実に回答できるかチェックをしました。そして、「これを押してしまったら・・・後戻りはできない」と、思いながらボタンを押したことを覚えています。

判定試験に合格し、いよいよ修了試験です。

JARDでの対面試験とCBTによるコンピューター試験、どちらを選ぶか少し迷いました。試験問題の回答見直しは、対面試験のほうが筆記ですので楽かもしれない、でも試験日や試験時間が限られるので日程に制限が出てしまう。今回CBTによる試験を選んだ理由は時間が自由になること、会場を好きなところから選ぶことができること、コンピューターという今までと同じ条件で受験できることなど、受験者の都合で選べることを優先しました。

それと、今までCBTのようなコンピューター試験を受けたことがなかったので、興味本位的なことも選択した理由です。CBTへの試験申し込みもいたって簡単でした。

利用登録を行い、都合のよい会場を探します。会場が決まれば後は望む日に試験が実施されているか、あるいは満席になっていないかを確認し、試験時間帯を選んで登録をすれば、予約終了です。もちろん予約確認のmailがCBTから届きます。簡単に受験予約が完了しました。

さて、CBTの会場に到着し受付を済ませると、腕時計をはじめポケットの中身を含めすべて私物はロッカーの中。試験会場への入室はとても厳格で、試験会場に持ち込めるのは、クリップボードに挟まれた受験誓約書と受付で渡された

計算用紙とボールペン、そして本人確認のための顔写真付き身分証明書とロッカーの鍵。すごく厳格、さすが国家試験と同等の修了試験！！

コンピューターの前に座り、受験番号、氏名を確認した後、いよいよ本番です。試験画面はほとんど判定試験と同じでしたので、戸惑うことなく受験することができました。

ここで、ご注意！！中間テストや練習問題で、回答したつもりでボタンを押さず次の問題に進んでしまい、無回答のために不正解になったことが多々ありました。修了試験の時にはそういうケアレスミスは絶対にしないことを第一に考えました。

たまたま、第一期の受講生となり、たまたま一抜けで修了試験に合格できたことは、私のハムライフと JARD さんとの何かのご縁と、この文章を書かせていただきました。

これからしばらく憧れの二アマのステータスに酔いしれながら、さらに上を目指していきたいと思っています。

試験に合格してしまった者が何を言っても不安の払しょくはできないかもしれませんが、とにかく演習問題、練習問題、中間試験問題、判定試験問題を繰り返し、反復勉強することです。そして、繰り返し教科書に目を通すことです。これは回答を丸暗記せよということではありません。繰り返すことにより、受験時に自信と余裕が生まれます。試験問題は全く同じ問題が出題されるとは限りません。未知の問題に出会ったとき、落ち着いて今まで勉強してきたことが自信となり、応用が利くようになるために繰り返すのだと思います。

もちろん暗記は役に立つでしょうが、繰り返すことが合格への第一歩だと思います。

合格を心よりお祈りいたします。